

『ホワイトマジック、グリーンマジック?』

稲富 理枝(千葉市緑区)

田んぼのお手伝いをさせて頂いて、5年目になりますが、まだまだ修行途上といった感じです。

こんなに奥深いんだ、こんなに素敵なんだ、という気付きの繰り返しの中、ずっと『この感覚、前にあったような?』と思いながらも思い出せないでいた感覚がフッと湧く瞬間がありました。そして最近、とうとうその真相にたどり着いたのです。

話は大きく飛んで、真っ白な雪原に真っ青な空、派手なウェアも映えて、飛ぶように滑降するスキーヤーやボーダー達。そこでは誰しもとても素敵に見えますよね、でも、街に戻ると皆普通の人に戻ってしまいます。グレンデで普段より少し魅力が増す現象は、当時ホワイトマジックとかグレンデマジックと言われていました。私も若かりし時代、子どもが生まれるまでは、真っ白な世界に魅かれて、毎週のようにスキーに行っていた時期がありました。毎度違うグレンデの状態も足しげく通う醍醐味でもあり、我流ですが、場数は重ねて滑る事はできたんです(過去形...(T-T))。

ある週末はガチガチのアイスバーンでした。グレンデ頂上まで上ると、小学生くらいの男の子が声をかけて来ました。恐くて滑って降りられないから助けてほしいとの事、近くには、弟と思われる子が泣いています。スピードが出すぎて転んだのでしょうか、板が外れてしまっています。

親御さんに会えるまで、この子たちを守らなくちゃいけない!という使命感がムクムクと盛り上がり、そこからは、斜滑降で大回りするようにゆっくり、慎重に二人を誘導。そして、無事、下にいたご両親に届けると、子どもたちから、パッと弾けるまぶしいばかり笑顔!その瞬間、真っ白なグレンデ全体が、一層白く輝いた様でした。

さて田んぼに戻って、小学校の田んぼ体験学習のお手伝いの日は、いつもより早く谷津田に入ります。日も登ってきて、木々や草の緑は一層輝いて、谷津田はさながらグリーンのグレンデです。

準備も進んだ頃、遠くからワイワイとにぎやかな声が近づいてきます。そして、子どもたちが登場!子どもたちの笑顔!笑顔!笑顔!

そこかしこで炸裂します。

そう!この笑顔に会う度に、あの白いグレンデで弾けた子どもたちの笑顔が脳裏に浮かんでいたのです。

スキー場にあるのがホワイトマジックだとすれば、こちらはグリーンマジックでしょうか?そういえば、谷津田に来るお母さん方は、皆、穏やかに微笑んで、輝いていますね。

マジックの効果はこれだけではありません。ス



キーに通っていた頃は、足腰も鍛えられていた様で、今では田んぼで踏ん張る力に役に立っているのかな、とも感じます。

長時間の田んぼ作業は当然、持久力も脚力も使いますが、全く苦にならないし、家に帰ればご飯をモリモリ、美味しく頂いて気持ちよく眠ることが出来ます。これは全て、グリーンマジックの効果ではないでしょうか？その上私は、子どもたちの笑顔を守りたい、健やかに成長してもらいたい、その過程に少しでも携わる事が出来るという幸せを感じています。

日常、家事や仕事に追われ続けてしまうのは私たち女性の定め。。。と諦めてしまいがち、これはもったいないですね。そんなとき、グリーンマジック！

皆さんもグリーンマジックに触れに、谷津田にぜひ、いらしてくださいね(*^-^*)

谷津田の農具図鑑③ 田植え縄・田植え定規

現代の田植えでは機械を使って規則正しく整然と苗が植えられています、その昔はおよその見当を付けてほしい同じ間隔になるように植えていました（“乱雑植え”）。明治の中頃になると国策として米の生産を増やす効率的な米づくりを政府が推奨するようになり、除草機を使った草取りをするために、また、日当たりや風通しを良くするために、稲をまっすぐ等間隔で植える“正条（せいじょう）植え”が普及しました。

正条植えのために使われたのが田植え縄と田植え定規です。

田植え縄は畦から畦に田んぼを横切って張る縄で、縄に等間隔に付けられた目印の場所に植え、縄を同じ間隔ですらしていくことによって規則正しく苗が植えられます。下大和田や小山のYPPの田植えではこの田植え縄を使っています。

田植え定規には田んぼに置いて田植えの目安にするものや田んぼの上をころがして泥の上に目安と成るスジを付けるものがあり、地方によってさまざまな工夫が凝らされているいろいろな形の田植え定規が作られたようです。

田植機がなかった昭和30年代までは田植え縄や田植え定規が日本各地で使われていましたが、田植機の普及により姿を消しました。



田植え縄を使った田植え（小山市にて）

（高山邦明）



← 田んぼにおいて目安とする型枠（いすみ郷土資料館収蔵）



定規に沿って植えたら横にころがして次の列を植える方式の田植え定規（佐倉市和田ふるさと館収蔵）



里山たんけんレポート

第 171 回 下大和田谷津田の観察会とゴミ拾い

2014 年 4 月 6 日 (日) くもり

林内から巡りました。スタート場所のコナラの幹にイボタガがとまっていた。羽化したばかりのきれいな見事な個体でした。ヤマザクラは満開、コブシはやや盛りを過ぎ、アオキは雄花が咲いていましたが雌花はまだ開花していません。フデリンドウを探しましたが見つかりませんでした。葉が出たばかりのハナイカダにはもう蕾がついています。昨日はリスが見られたので今日も期待したのですが現れませんでした。

田んぼからはシュレーゲルアオガエルの合唱、キジは 3 か所で盛んにケーンケーンと鳴いて、縄張りを主張しているのか、お嫁さんを募集しているのか。カワセミは終日鳴きながら谷津を飛び回ったり、田んぼに立っている竹にとまってダイビングして餌をとったり、たっぷり楽しませてくれました。空高くノスリも舞っていました。冬鳥はアオジの声をひとつ聞いただけでした。

道端や畦は花でいっぱい。花を愛で、時に味わったり、香りをかいだりしながら短縮ルートで巡りました。新たな山の手入れでたくさんの捨てられたゴミが出ています。手入れと並行して片付けます。

(参加者 大人 10 名、高校生 4 名、こども 1 名； 報告・写真：網代春男)

第 107 回 小山町 YPP「苗代づくり」

2014 年 4 月 13 日 (日) 晴れ

コシヒカリと黒米の苗代づくりをしました。いつものように田んぼの一角に泥を盛り上げて長方形の島を作り、上を平らにして苗代にします。1 週間ほど前から水に浸して芽だしをした種もみを重ならないように薄く均一にまき、上から手のひらでそっとたたいてもみを泥の中に埋めます。最後に野鳥などに食べられないようにネットをかけて苗代のできあがり。5 月の田植えまでとうまく育てられることでしょう。

田んぼでは春の陽気に雑草が元気よく伸びはじめてるので、大きく育てて目立つ草を抜きました。よく見ると泥の表面に小さな草の芽がびっしりと出ているところもあり、ソツとしました。田植えまでの間に何度か草取りをしないとイケませんね。

(参加者：大人 7 名、小中学生 4 名；報告：高山邦明)



番外編 小山町 YPP「コシヒカリの田植えと古代米の苗代づくり」

2014 年 5 月 6 日 (火・祝) くもり

地元の方からいただいたコシヒカリの苗を植えました。自分たちでも苗代で育てていますが、日当たりが悪い田んぼは早く植えた方がいいと思い、急遽、作業になりました。ちょうど、小学生の子どもたちが参加してくれたのでにぎやかな田植えでした。足下でオタマジャクシが泳ぎ、親のカエルが飛び出してくる自然たっぷり、わくわくの田仕事です。6 月に入ってから田植えをする赤米と緑米の苗代を作りました。今回は種もみを浸水せず、直接苗代にまきました。

田植えに備えて畦の補修や草取りもしました。段差のある田んぼは水が漏れやすく、モグラが空けた穴があるとそこからあっという間に水が抜けて田んぼが乾いてしまいます。穴を見つけて埋め、畦には厚く泥を塗って水漏れ対策をしてしっかり水が貯まるようにしました。雑草の勢いはすごく、ヘラオモダカやミゾソバなど厄介な草がぐんぐん生育しており、これから夏にかけて草との戦いです。

(参加者：大人 8 名、小学生 4 名；報告：高山邦明)



<谷津田・季節のたより>

小山町

- 4月13日 畦ではニョイスミレやケキツネノボタンなどが咲き、斜面林ではモミジイチゴやヤマザクラが白い花をつけていた(高山)。
4月29日 サシバの鳴き声を聞く(松下)、田んぼで今年始めてヤマカガシを見る、小さなヒバカリの姿も(柳町)、畦ではオオジシバリやハルジオン、トキワハゼなど春の草花が勢揃い、田んぼにシュレーゲルアオガエルの卵塊があった、斜面林でウワミスズクラが咲く(高山)。
5月5日 シュレーゲルアオガエルの卵塊からオタマジャクシが孵化、斜面林からキビタキのさえずりが聞こえてきた(高山)。

下大和田

- 4月2日 コブシが満開。シュレーゲルアオガエルの大合唱が始まる。アズマヒキガエルの孵化が始まる。金谷さん田に3つ、花沢さんハス田に3つ程度の産卵があった(網代)。
4月5日 苗代つくりの昼休みの林内観察地にニホンリス出現、木々を数十メートル移動して視界から消えた。ここでの出現は初(網代)。
4月6日 観察会の日、ヤマザクラが満開。カワセミが終日鳴きながら活発に谷津中を飛び回っていた。羽化したばかりのきれいなイボタガ(大型の蛾)がコナラにとまっていた(網代)。
4月24日 倒木を整理した森にヒトリシズカが咲く。下大和田で初(網代)。
4月29日 キビタキの囀りを聞く。ウワミスズクラ満開、イヌザクラ咲き始める(網代)。
5月1日 田からタシギ飛び立つ。イタチ現れる(網代)。

イベントのお知らせ

谷津田ってどんなところ? と興味をお持ちの方、お米づくりを経験してみたいなと思っている方、YPPのイベントには大人から子どもまで、はじめての方でも好きな時にご参加いただけます。家族で、お友達どうして、もちろん、お一人でも気軽にいらして下さい。

連絡先(いずれも): ちば環境情報センター (TEL&FAX: 043-223-7807 E-mail: hello@ceic.info/)

ご注意: ・車でこられる方は必ず指定の駐車場に止め、農道などにおかないください。

- ・近くにトイレがありませんので、集合前に一度済ませておくご協力をお願いします。
- ・小学生以下のおさんは保護者同伴で参加ください。
- ・けがや事故がないよう十分な注意は払いますが、基本的に自己責任でお願いします。

▼第161回下大和田 YPP「田植え」(兼、第4回米づくり講座)

いよいよ田植えです。コシヒカリ、農林1号、そして、古代米の赤米、黒米、緑米を植えます。緑の色濃くなる初夏の谷津田での気持ちのよい作業です。

日時: 2014年5月17日(土) 10~14時 *小雨決行

場所: 千葉市緑区下大和田谷津田(ちば・谷津田フォーラムのホームページで地図をご覧ください。また、ご連絡いただければ地図をお送りします。)

集合: 中野操車場バス停向かいラーメンショップ脇に10:00(JR千葉駅10番成東あるいは中野操車場行き)のちばフラワーバスで45分<千葉駅発8:53、9:08、9:23など> 料金は520円)

持ち物: 弁当、飲み物、長靴(田んぼが深いので長めがいい)、帽子、軍手、敷物。

参加費: ちば環境情報センター会員および家族100円、一般300円、小学生未満無料

主催: ちば環境情報センター 共催: ちば・谷津田フォーラム

▼第173回 下大和田 6月の谷津田観察会とごみ拾い

卯の花の匂う垣根に時鳥はやも来鳴きて忍音もらす夏は来ぬ)の季節。命あふれる谷津を散策します。

日時: 2014年6月1日(日) 10~12時 ☆小雨決行

場所: 千葉市緑区下大和田谷津田(同上)

集合: 中野操車場バス停向かいラーメンショップ脇に10:00(下大和田 YPP に同じ)

持ち物: 筆記用具、飲み物、長靴、帽子、敷物、ゴミ袋、午後まで活動する方は弁当など

参加費: 100円(小学生以上、資料代など)

主催: ちば・谷津田フォーラム 共催: ちば環境情報センター

▼ちば里山くらぶ活動日 谷津田の森と水辺の手入れ

日時: 2014年5月11日(日)、5月16日(金)、6月8日(日)、6月20日(金) いずれも10:00~15:00

場所: 千葉市緑区下大和田谷津田(同上) 持ち物: 飲み物、弁当、長袖長ズボンの服装、長靴、帽子、敷物

主催: ちば環境情報センター

▼第108回 小山町 YPP「田植え」

コシヒカリや黒米の田植えをします。初夏の谷津田でひと汗流しましょう。

日時: 2014年5月24日(土) 10:00~12:30、小雨決行

場所: 千葉市緑区小山町 リンドウ広場(ご連絡いただければ地図をお送りします)

持ち物: 飲み物、長靴(田んぼが深いので長めがいい)、帽子、軍手、敷物。

参加費: 100円(小学生以上、資料代など)

主催: ちば環境情報センター

編集後記 最近、ちょっとした土地に太陽光パネルが並べられているのを見かけます。空き地や遊休耕作地の有効利用です。遊んでいる土地を使って自然エネルギーを生み出すのが良いアイデアであることは確かです。しかし、一方で空き地には空き地の自然があり、生きものが暮らしており、太陽光パネルの設置はそれを失うことになることが考えられていないことが心配です。空き地は子どもたちが身近な自然に触れる貴重な場であることも忘れてはいけません。(高山 邦明)